

二〇六

怪物傳論

三

とて寤ふく^{あつさるまゝ}ひつる^{あつさるまゝ}目覚^め先^{さき}に^に身^み
乃^{すなは}ち^ちも^もよ^よう^うと^とて^て。寝^ねる^るの^の端^はと^と起^おく^く色^{いろ}成^{なり}
久^{ひさ}し^しに^に悲^{かな}慄^{おそ}は^はし^して^て。お^おも^もも^も動^{うご}静^{けい}と^と何^{なん}も^も
玉^{たま}世^よに^に只^{ただ}熟^{じやく}睡^{すい}し^して^て。是^{こゝろ}と^とあ^あら^らむ^む。衆^{しゆ}女^{にょ}
初^{はじめて}て^て此^{こゝろ}様^{よう}事^{こと}と^とえ^える^るよう^{よう}に^にい^いふ^ふは^はせ^せん^んと^と言^いひ^ひ
う^うろ^ろと^と房^ふ若^わ越^えの^の聲^{こゑ}一^{ひと}止^{とど}め^めて^て。今^{いま}急^{きう}迫^{はく}ひ^ひは^は
と^と捕^{とら}へ^え玉^{たま}世^よに^にの^の市^{いち}見^みの^のと^とま^ま所^{ところ}に^に居^いる^る
本^{もと}あ^あら^らん^ん今^{いま}も^も月^{つき}は^は先^{さき}に^に思^{おも}は^はれ^れぬ^ぬや^や。夜^よの^の明^{あけ}
な^なが^がお^おき^きが^が油^{あぶら}灯^{とう}と^と対^{たい}面^{めん}な^なと^とそ^その^のお^おの^の



新所の次の間。荒女あきめ習し我わと孫ひこと更また
にと結むすんで終はぬと身みを。明あきれはあ
休やす友ともへ形かたちと費あつを。休友やすとも主婦しゅふの玉たまを
あひふ溺おぼき。一ひとあり。おまが日ひ頃ころ乃すなはち
あつふとと集あひめ。のる降ふり田い思おもひの
さう。まじやめ。忽たちまちに新あらたと記おとし。ひふ
血ち友ともが都みやこ情なさけのうと。傷へん執しつの
公こう得とくこの海うみと作つく用もちせと。遠とほくあ
海うみの青あおい。印しるして休友やすとも主婦しゅふのうと。時ときは

同通とをさるゑも人として至余の事なりふ
各公仲小娘恨むといふも。奈何も怪
るあく。於病後匿々あり。然り小玉を
病に俄く愛し。医療と侍を卒去
し。然バ父母の悲傷大なるあり。おま
も此ふありと放て。弟後と亡し。無女
許をそへて送。骸小傳て。威をく
泥る。涕泣して。わえり。居が。稍。又。後。と
和風定の。子。子。小。書。後。是。雨。を。が。つ。て

怪物論卷三

おの。の。の。海。冷。る。ふ。血。母。へ。あ。る。は。睡。眠
し。て。解。念。あ。る。む。只。お。ま。の。と。真。然。と。記
し。て。お。ま。の。解。乃。め。く。害。母。と。な。り。て。王
爺。が。死。骸。ふ。れ。つ。き。牙。と。あ。り。し。骨。と。う。そ
血。と。ま。り。て。あ。る。味。や。く。笑。懐。さ。る。夢
岩。城。は。け。馳。入。て。出。侍。と。な。る。よう。懐
疑。と。り。て。是。ふ。向。ふ。お。ま。の。心。乃。面
及。り。身。と。し。て。岩。城。小。飛。う。る。と。拂
返。て。一。刀。切。る。よ。く。人。と。な。り。て。解。方。解。方。と



三ノサ



一九五

庭におも葛出消伏も。佐友邪と軍より
多れおきが宿所ふ。人と馳てんせむ
ふ。奈何らんや。空飛ちなりて。近隣ふ
雷むれも。るて。その行方と紐者ふ。
儲しも。邪る怪異乃。その所以と紐せ
む。之商張。矢しく。各青。獨る。あふ。この
え。終て。送葬と。當早と。佐友。又。婦ハ
飛。業ふ。玉。善と。多。ひ。つる。と。深。く。新。ま
懐る。と。い。ふ。も。奈。何。と。い。ふ。今。又。女

が物と圖まがざると大小悔くやる。能うまくは
殺ころす。衆女と宿やどて出仕しゅっしなさむ。然しかるに
又妹いもうと小女こな風ふうと病やまひり臥ふしる。づ。換か体たい不
善ぜんが病やまひ症しやうり送こふ事ことなされば。依よ安あんす。又
層そう目め之のと怪き威ゐ無む傷き。神かみ仏ぶつ子こをを忍しのび
と能うまされども甲斐かいなす。其その一ひと奇きれ風
様やうのそ區まちくちあれば。傳ふ女にや等らさぬぐり
公こうと附つて。日夜ひつ病やまひ間まと身み長ながる。づ。あ
おみえ入いの比ひ。小女こな像やうし。て大小さう叫きぶ。衆

女おどろ懐なつきび屏びん風ふう乃な狂くるりま蒐そう入いてれれん見
たる。何なん地ちよりり来きまる母はは。おお吉きち以いお
乃な魔ま鬼きとなりて。小こ蟲むしがの咽のどり喰附つき
嚙かくと骨ほねと噛ならむを小こまをやと人ひとぐ
絡かくちちとる車あれバ一糸いと小こかりて
おお屠と人ひととひーめくふぞ。お吉きち躍はちと
狂くるり。妹や日乃な本ほん懐なつ輒さ附つきり。三
怨うら恨み積せき聚く散さんいらと。笑ひ罵り。三
出いると。衆しゆ女にょ支さてお困こむり。そ奴やつ飛ひ鳥てうの

怪物論卷三

く。人の眼とらまく蒐そう出いると。客きやくと一
長なが刀たうとおのへ飛とりて切き倒たうり。灯と三
どと是こと狂るう。正ただくとぞ入へせー
いと又またおお吉きちが歎も罵も飛さればこい
奇ききらりと探たたを懸けん換かんまるり。唯
赤あかちの首くち血ち沙さり漆まるて三
佐さ友ともり。母始はじめ末まとまて大小せう歎たん息そく。
頃ころ刻くわくありていま。室小こ唄うたるる屋やにハ物もの
と殺まるの玉鼓こなる。今いまこの赤あかちの乃

背^うに接^つて。ち^ちとて此^こ怪^{かい}事^じと知^ちる。是^この
廢^そ背^く玉^{ぎよく}等^ら初^{はつ}雅^やの^とに異^い疾^{しつ}小^{せう}遭^あ。右^{みぎ}の股^か乃^{すなは}上^{うへ}り瘡^{かさ}と生^なじ。痒^{かゆ}と忍^{しの}ぶ
る^も。剝^{はく}剥^{はく}小^{せう}癰^{よう}も^も。瘡^{かさ}小^{せう}解^{かい}。同^{どう}く瘡^{かさ}と熱^{ねつ}入^いる小^{せう}より。血^{けつ}脈^{みやく}医^いと更^{さら}瘡^{かさ}
むれ^もも効^{きう}あ^らむ。其^{その}時^{とき}我^{われ}我^{われ}以^{もつ}爲^{なる}
獨^{どく}異^い志^し小^{せう}回^{かい}。瑯^{らう}瑯^{らう}と^と。一^{いち}女^{にょ}子^し有^あ。
年^{ねん}以^{もつ}延^{えん}蹄^{てい}乃^{すなは}瘡^{かさ}と熱^{ねつ}ひ。華^け佗^たと^と。治^ちと^と。佗^たその^{その}瘡^{かさ}と診^{しん}て^て。乃^{すなは}瘡^{かさ}

怪物論卷二

針^{しん}葉^やの及^{およ}所^{しよ}小^{せう}あ^らむ。吾^{われ}術^{じゆつ}と^と。治^ち
ま^まべ^べ。其^{その}家^け人^{にん}小^{せう}教^{けう}て^て。曰^{いは}赤^{せき}犬^{けん}一^{いち}足^{そく}と^と。需^そ
得^{とく}て。是^こと馬^ば乃^{すなは}脛^{けい}に^に。繫^{けい}馬^ばと^と。走^{そう}り
む^むる事^{こと}五^ご十^{じふ}里^り小^{せう}。即^{すなは}犬^{けん}の頭^{かう}と^と。割^{きり}て
此^こ痒^{かゆ}き^き。向^{むか}ひ^ひ。其^{その}父^ふ母^ぼ喜^きひ。是^こ小^{せう}從^{じゆ}ひ。其^{その}め^めと^と。小^{せう}忽^{くつ}然^{ぜん}瘡^{かさ}中^{ちゆう}より
蛇^{へび}の揺^ゆ元^{げん}と^と。引^ひ出^でて。其^{その}病^{びやう}瘡^{かさ}と^と。得^{とく}る^ると^と。因^よ此^こ瘡^{かさ}中^{ちゆう}より。皮^{かわ}の下^{した}

小蛇うづくちとかんる。故ゆに佗たが言ことと執しつ肯けん令しせ見

る。これハあまがも強つき事ことや。死しゆもあつたてきせいと摘てき青せい

雜ざ説せつ小せう曰い。夏か月げつ蛇へび交こう合ごうの時とき精せい液えき草そう

中ちゆう小せう滴てき落らくちと送い毒どく小せう感かんむる。めいのハ瘡うさ

の中うち小せう蛇へび兒こと生うむと。猥つまいり小せう志しし。これバ。儲たくわ

しと玉たま世よ庭てい死しの草くさ中ちゆうにおままりし。此こ病びやう

と受うけ。ちと上かみ件けん華け佗たがつ方かたに

ちと我われ赤あかれ大だいと拿とりし。既すで不ふる。の

脛むねちとつるが人ひととしる時とき。は火くわ殺ころさる。めと精せい



畜獸といふども。そ念ふの業通なる。
両子と唱ておふ獲し。そ首のこを獲し。
こゝへ。婦念とてしして。婦念なき。着おの
違つた。事。そ例なれ。あもあ。ど。名。医
類。案。あも。ふた。狗。の。形。と。愛。ト。婦。小
害。と。な。し。始。末。殊。小。婦。代。の。玉。を。愛
つ。つ。と。佐。友。前。綱。と。追。悼。し。よ。う。お。れ
我。物。の。命。と。し。し。よう。あ。て。見。方。の。子。小
被。ひ。飛。葉。の。家。と。と。違。つ。る。へ。係。み。是
積。悪。の。な。き。所。み。て。被。て。他。小。恨。み。
と。彼。狗。の。首。と。華。王。境。と。と。そ。水。陸
と。渡。し。佐。友。し。る。世。俗。小。西。國。乃。大
城。と。し。る。そ。監。錮。へ。は。ち。つ。う。と。ど

怪物論卷三